

ロシア材

08年

となったが、主力のロシア材が半減、米加材が12・6%減、南洋材が28・7%減などまとまった減少となった。ロシア材については丸太輸出税引き上げ問題に揺さぶられ、産地価格の上昇もあって北洋材製材のみならず、

んだ。複数の合板メーカーが原料の国産材シフトを加速、製材産業は丸太挽きからの撤退が相次ぎ表面化した。ロシア産地の丸太生産低下により、ロシア国内の製材産業も丸太不足に直面し、製材出荷を鈍化させた。

08年

品目		1~3月
丸太	南洋材	195.91
	アメリカ材	75.78
	ロシア材	530.78
	N乙材	470.36
製材	南洋材	197.52
	アメリカ材	83.51
	ロシア材	668.55
	N乙材	138.23
	チリ材	31.25
その他	欧州製材	99.95
	合板	352.43
その他	構造用集成材	807.01
		71.83

米材丸太は大手の生産減、中堅や小手製材の撤退及び樹種転換などにより、03、04年水準には遠く及ばない。アフリカ材丸太は08年増となった。ただ、前

まで入荷が落ち込んでいた。欧州産地を供給主体とする構造用集成材入荷も37%もの減少となっている。ただ、昨秋以降ユーロが急反落、欧州域内製材需要緩和で日本向け供給圧力が強い。

米加産材は7・5%増となった。ただ、前

地域材と金物工法で新たな需要層を

製材のグレーディング課題に

地域材活用の研究をしている南宗和氏（京都大学大学院農学研究科森林科学専攻博士課程）は、地域材活用を進めていくうえでムク材で利用できる金物工法の開発が必要と考えている。一般の工務店・ビルダーが容易に地域材を使用するためには、こうした金物の開発が必要なこと、「製材側もグレーディングをしっかりしていくことと、含水率管理の徹底が重要」と南氏は話す。

インタビュアー

地域材活用を進めて 対応できるということはいくつうて金物工法に 重要なことと考えて



京都大学大学院農学研究科 森林科学専攻博士課程 南宗和氏

いる。すでにいくつかの金物工法でムク材対応可能なものは製品化されているが、製材のあばれ、乾燥収縮、節

が課題となっている。金物工法の特徴として、現場の施工精度に左右されにくいことや断面欠損が少ないことなどがある。

製材のグレーディングが重要で、無等級では判断できない。高温乾燥材の内部割れが金物工法にとつては弱点と見られてきたが、比較試験では高温乾燥も大きな差はなかった。高温乾燥といつても、10度くらいまでの高温域を使う高温セット

が普及してきていることとも関係しているかもしれない。ドリフトピンの部分が掛かるのは好ましくないが、試験

また、杉板の側面にH型の金物を打ち込み一体化することで床倍率を確保できる工法開発も行っており、地域材の梁と組み合わせて現して使える剛床の開発も地域材活用には必要になってくるだろう。

で330万円の特別措置法

国土交通省関 長期優良住宅 種インセンティ 及を図る・住宅 減税Ⅱ過去最大 0万円規模に・ 築士法Ⅱ木造3 には構造設計、 計1級建築士が 住宅瑕疵担保責 法Ⅱ10月1日以 ぎ渡し住宅には 必須・地域木造 場活性化事業Ⅱ な建材流通シス 築が課題・高齢 政策Ⅱ高齢者向 セーフティネッ 充・住宅不動産 性化緊急対策 者、購入者双方 し市場を活性化 のCO₂推進Ⅱ 発電補助再開へ 地震保険料改定 は一部値上がり 1本改訂Ⅱ木材 変化の可能性・ ツシ試験不正Ⅱ 0棟以上に影響 農林水産省関 森林整備保全 画Ⅱ資源量約1 00万立方増 業公社支援Ⅱ森 重な社会的資源 等特別措置法Ⅱ